



美貌の娘、 寅子の伝説

その昔、長者の家にたいへん美しい寅子という娘がいましたが、押し寄せる求婚者に悩む両親を見かねて心を痛み、自ら命を絶てしまいました。求婚者たちは悔い改め、供養塔を建てて悼みました。実はこの話にはちょっと怖いエピソードがあります。気になる人は調べてみてくださいね。

空にそびえるように立つ

板石塔婆いたいしとうば（通称「寅子石」）

市の最南端、辻谷にある高さ4m、県下で2番目に大きい板石塔婆です。鎌倉時代延慶4年（1311年）に唯願法師が真仏法師の報恩供養のために建立したものです。この板石塔婆には長者の美しい娘、寅子の悲しい伝説が伝えられていて地元では寅子石と呼ばれています。

日本でここだけ！ 芥川龍之介直筆の碑

関口平太郎顕彰碑 （芥川龍之介の撰文碑）

芥川龍之介と親交のあった蓮田市出身の関口平太郎さんの善行をたたえたもので「正直の頭に神宿るとはこう云う人」と最大限の賛辞が贈られています。全国にある芥川龍之介の碑文の中で最も古く、唯一の自撰自筆といわれる貴重な石碑です。

関口平太郎さんはどんな人？

蓮田市出身の関口平太郎さんは現在の東京都新宿区で按摩業を営んでいる際に龍之介と出会いました。東北地方が大飢饉に襲われたとき子どもたちに学用品を贈ったり、平野村に就学奨励金を寄附したりと善行を重ねた篤志家として知られています。

市指定有形 文化財



美貌の娘、 寅子の伝説

その昔、長者の家にたいへん美しい寅子という娘がいましたが、押し寄せる求婚者に悩む両親を見かねて心を痛み、自ら命を絶てしまいました。求婚者たちは悔い改め、供養塔を建てて悼みました。実はこの話にはちょっと怖いエピソードがあります。気になる人は調べてみてくださいね。

県指定有形 文化財



蓮田市に残る文化財は縄文時代のものだけではありません。縄文時代以降もさまざまな人々が日々の営みを紡いできました。平安時代には元荒川の両岸に砂鉄を利用して鉄製品をつくる鍛冶集落が生まれ、末期には武士が台頭してきました。鎌倉時代には武士が勢力を強めて大きな屋敷を築くようになりました。

た。江戸時代になると村ごとに神社や寺院が建立され、庶民の間にも庚申講や富士講が盛んになっていきました。また見沼代用水の築造により新田開発や江戸と結ぶ船の往来も活発になりました。市内には、このような歴史のさまざまな場面を今に伝える旧跡や民俗芸能・行事があります。

Intoxicated with Ancient Scenery

The cultural Properties found in Hasuda City is not limited to the Jomon period alone. Countless peoples have occupied this area and woven their daily lives here throughout subsequent eras. During the Heian period, a village of blacksmiths was established, who utilized the iron sands on both banks of the Moto-Arakawa River to forge iron goods, and a culture of samurai warriors emerged at the end of that period. During the Kamakura period, those samurai grew stronger and came to build large mansions in the area. Then, during the Edo period, shrines and temples were constructed in each village, and the religious traditions of Koshinko and Fujiko became popular among the common people. Meanwhile, the construction of the Minumadai waterway led to the development of new rice paddies, and travel by boat became available back and forth to Edo (today's Tokyo). Today, there are many historical sites, folk performing arts, and events in the city that speak of this history.



300年前にタイムトリップ！

しきさんば 閨戸の式三番

毎年10月の第2土曜日に愛宕神社（閨戸）で奉納される「閨戸の式三番」は、県内で唯一伝承されている式三番です。白い面の翁と面をつけない千歳、そして黒い面の三番叟が舞い、豊年や繁栄を願う民俗芸能で埼玉県の無形民俗文化財に指定されています。地元の人たちで構成される「閨戸の式三番保存会」によって昔ながらの形が守られてきました。3人の立役者や囃子方、地謡を演じるのは若衆と呼ばれる地元の男性たち。舞には種まきや鳥飛びなどと呼ばれる農耕に由来する動きが見られます。由来は定かではありませんが、今から300年以上前の宝永年間（1704～1710年）に閨戸にある秀源寺の僧が愛宕明神を祀った際、五能三番の舞を復活させたと伝えられています。

国選択無形 民俗文化財

県指定無形 民俗文化財

五穀豊穡を願う農村の神

黒色尉と呼ばれる黒い面をつけて謡い舞う役です。三番叟は野趣に溢れた田の神で、翁とは対象的におもしろおかしくエネルギーギッシュに演じます。翁の舞を分かりやすく説明しているともいわれています。



三番叟 さんばそう



千歳 せんさい

奉納神事の露払い役

翁の露払いとしてさっそうと舞う若者を象徴する役で、3人の中で1人だけ終始面をつけずに演じます。奉納のはじめに、御神体である白色尉（翁がつける白い面）、黒色尉（三番叟がつける黒い面）や神楽鈴を納めた面箱を捧げ持つ役割も担っています。

知ればもっと 面白くなる！ 3つの舞

翁 おきな

天下泰平を願う長寿の神

白色尉と呼ばれる白い面をつけて謡い舞う役です。この面は長寿・福德の神を象徴したものであるといわれています。「とうとうたり、とうたり」という歌詞が印象的な謡いをしながら、静かで優雅な舞を舞います。

千秋万歳の喜びの舞なれば、ひとさし舞う、万歳楽～



感動に出会える
蓮田の
JO

いにしえ
古の情景に
酔いしれる